

うまい!

岩船米づくり情報 No. 4

令和8年6月
岩船農業振興協議会
村上農業普及指導センター

～ 中干し後の飽水管理で登熟の向上を目指しましょう ～
～ 収量確保のため、早生品種の穂肥は適期に実施！！ ～

－ 重点事項 －

- ◎ 中干しの終了後は、「飽水管理」を実施し、根を健全に保つ。
- ◎ 早生品種の穂肥は遅れずに適期・適量の施用で粒数確保を図る。
- ◎ コシヒカリは、出穂 30～40 日前頃のケイ酸追肥で稲の体質強化を図る。

- ・ 中干しの開始のめやすは、田植えの1か月後です。生育が進んでいるほ場や地力が高いほ場などでは、田植え 25 日後頃に生育状況を確認しましょう！（詳しくは、岩船米づくり情報 No. 3 をご確認ください）
- ・ 粒数が多いほど、登熟期間の高温など異常気象の影響を強く受けます。早めの中干しで過剰な生育（茎数）を抑えるとともに、下位節間の伸長抑制による倒伏軽減を図りましょう！

1 中干し以降の水管理 ～大ヒビ厳禁！ 間断かん水や飽水管理へ～

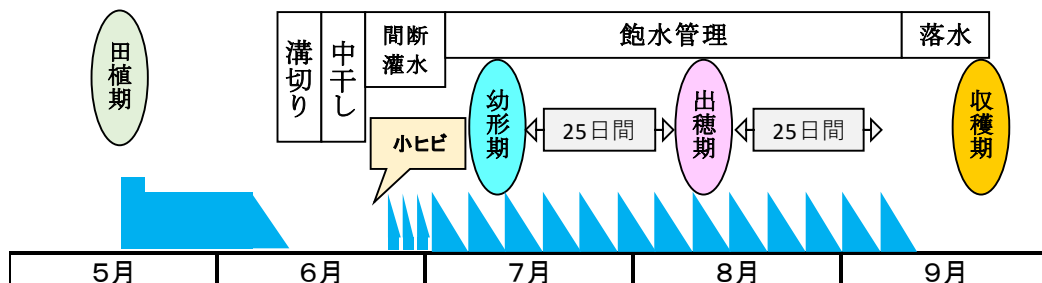
- 中干しは、「田面に小さなヒビが入り、軽く足跡がつく程度まで」を基本として、生育量が大いほ場や地力が高いほ場では強めに行います。
- 乾かしすぎて大きなヒビが入ると根を傷めたり、登熟期に稲体の老化が進みやすく、品質低下につながります。
- 中干しは、出穂期の1か月前までには終了しましょう。 終了時期が遅くなると、根域が縮小し高温年に品質が低下する場合があります。
- 中干し後は、浅水の間断かん水を実施し、徐々に飽水管理へ移行しましょう。 うわ根の発生促進や根の健全化及び地耐力の維持になります。



中干しは小ヒビが入るまで！
大ヒビ厳禁！

【水管理のイメージ図】

※出穂の前後 25 日間は、飽水管理を徹底しましょう



- * 間断かん水とは、湛水状態と落水状態を数日間隔で繰り返す水管理です。
- * 飽水管理とは、水尻は止水し、自然減水で田面の水が無くなり、溝や足跡の底に水がたまっている箇所が散見される状態になったらかん水する方法です。

2 早生品種の穂肥施用のポイント ～遅れず適期に施用～

- 早生品種の1回目の穂肥施用は、収量確保のため適期を逃さず確実に実施しましょう。
- 生育量が極端に大きく倒伏が懸念される場合などは、遅め控えめの対応としましょう。

穂肥の効果

出穂期前日数	35～30日	30～20日	15～10日	10日以内
一穂粒数増加	△	◎	○	×
登熟の良好化	×	○	◎	◎

例：こしいぶき 1回目：23日前、2回目14日前

幼穂長と出穂期前日数の目安

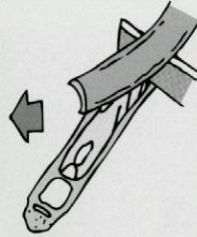
出穂期前日数(日)	幼穂長(cm)
24	0.1
20	0.2～0.4
18	0.5～1.0
12	4.0～6.0

- ※ ほ場内の平均的な株の最も長い茎から3～4本を抜き取り測定する。
- ※ 数株から採取し総合的に判断する。

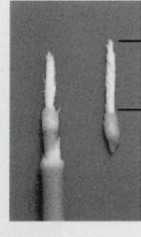
幼穂長の確認方法

【幼穂の長さを確認する】

〈その1 カッターなどで割る〉



〈その2 葉鞘をむく〉

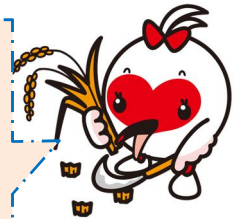


(参考) 出穂期前日数とイネの外観

24日前	次葉(止葉の下の葉)抽出開始
18日前	止葉抽出開始



早生品種の出穂期予想及び施用目安は6月20日頃に発行予定です！左のQRコードのリンク先からご覧いただけますのでぜひご利用ください！



3 コシヒカリのケイ酸追肥 ～猛暑に負けない稲づくり！～

- 水稲は、幼穂形成期以降にケイ酸の吸収量が急激に増加します。
 - 気象変動に強い稲体づくりには、出穂前のケイ酸追肥が有効です。
 - 出穂30～40日前に、ケイ酸肥料を追肥し、稲の体質強化と根の健全化を図りましょう。
- 〔(例) けい酸加里プレミアム 34
の場合：20～40kg/10a〕



高品質でおいしい岩船米を目指してガンバロー！

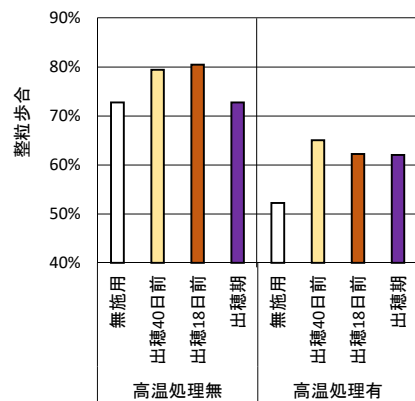


図 ケイ酸追肥時期別の整粒歩合 (H28)

*ケイ酸追肥で、高温時に品質が低下しにくい

- * 電子メールで技術情報の配信を希望される方は、表題に技術情報希望、本文に住所・氏名・電話番号を記載し、以下のアドレスまでメールを送信願います。
- メールアドレス：ngt111240@pref.niigata.lg.jp

下のQRコードからお申込みできます。

